



# 事業報告書

## 《学校・家庭・地域連携支援事業モデル校》

教育事務所	市町村	学校名	学校長氏名
水戸	東海村	東海村立村松小学校	橋本 典子
県北	北茨城市	北茨城市立華川小学校	益子 直
鹿行	鉾田市	鉾田市立大洋小学校	大川 行彦
県南	土浦市	土浦市立新治学園義務教育学校	中島健一郎
県西	五霞町	五霞町立五霞東小学校	中川 孝志

## 《実践研究テーマ》

学校名	テーマ
東海村立村松小学校	地域コミュニティと連携した学校教育活動の充実
北茨城市立華川小学校	学校・家庭・地域でつくる華川っ子 ～コミュニティ・スクール設置委員会と 地域産業「自然薯栽培」を通して～
鉾田市立大洋小学校	家庭や地域の人々につながる学校教育の在り方 ～統合一年目に学校サポーターの輪を広げる手立て～
土浦市立新治学園 義務教育学校	地域との連携・協働を推進し、 「地域とともに教育活動を推進する学校づくり」を目指して
五霞町立五霞東小学校	家庭・地域と連携した開かれた学校づくりの推進 ～保幼小中連携、家庭教育学級の充実等を通して～

# 令和4年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（東海村立村松小学校）

## 1 学校全体としての取組

### （1） 地域コミュニティとの連携によるビオトープの管理と維持

本校には、海岸段丘の高低差を利用した学校ビオトープがあり、そこに生息する豊富な野生生物は、生きた自然体験の教材として学習に活用されている。ビオトープ委員会が管理や観察の活動を行っている。ビオトープの維持管理には、長年にわたり地域コミュニティの方々が除草やベンチ等の設置に尽力してくれている。



### （2） 地域の方々の協力による「村小まつり」での昔遊び体験の実施

本校では、PTAや地域コミュニティの協力を得て「村小まつり」を開催している。昔遊び体験では、地域コミュニティと連携して年長者の協力を得て、コマ回しや紙飛行機などの遊びを広く体験することができた。



### （3） 地域コミュニティの協力によるミカン栽培

敷地や斜面にミカンの植樹が行われており、地域コミュニティの協力で維持管理がなされている。収穫したミカンは給食時に配食され、毎年、児童が楽しみにしている。収穫時には、児童と地域コミュニティの方々とで交流がもたれている。



#### (4) 地域自治会の夏祭りや陶芸教室への参加

地域自治会や青少年育成会議では、夏祭りやウォークラリーをはじめとした様々な催しを開催している。夏祭りでは本校児童がソーラン踊りを披露している。フードフェスタでは吹奏楽部が演奏を披露している。敬老会には低中学年の児童が参加して、高齢者との交流活動を行っている。



#### (5) 学習活動に対する協力

学習活動では、ビオトープに生息するホタルの飼育や観察に取り組んでいる。地域の専門家の協力で学習会や観察会を開催している。また、クラブ活動では、野鳥観察クラブに地域の専門家の方々が指導に当たってくれている。パンポンクラブでは地域自治会の方々が指導やコート設営に当たってくれている。



## 2 家庭・地域等との連携の工夫点

コミュニティ・スクールを中心として、学校、PTA、自治会や商工会、地域コミュニティ、地域事業所など複数の団体で情報交換を行うことにより、互いの活動内容を把握し、適切な時期に適切な援助ができるようにしている。

## 3 事業の成果と課題

### 【成果】

学校運営協議会の開催により、意見を交換することで、各団体それぞれの役割が明確化され、学校に対する持続的な支援が可能となった。各団体とも子どもたちのことをよく理解しており、協力的であり、様々な活動をスムーズに進めることができた。

### 【課題】

保護者アンケートによると、地域行事への参加についてはコロナ禍以前までは戻っていない。今後は、さらに保護者と地域が連携できるような機会を作っていくたい。

# 令和4年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（北茨城市立華川小学校）

## 1 学校全体としての取組

### (1) 地域資源「自然薯」（北茨城自然薯研究会の支援）の栽培

①目的 華川地区の特産物である自然薯の栽培を通して、種芋から大きくなるまでの過程に見られる感動を味わったり、天候や生育環境に配慮するなどの苦労を感じたりすることで、主体的に学習しようとする態度や自分たちの地域への愛着や理解を深めようとする態度を育てる。

②内容 ・自然薯について地域の農家の方に話を聞いたり、自分で調べたりして地域の特産物についての理解を深める。  
・床づくり、苗植え、水やり、雑草取りなどの世話をする。  
・成長したものを収穫し、各家庭で味わう。

6月 植え付け

割りばしの印にそって植え付け



12月 収穫

「とい」の中に入って育つと、まっすぐに成長



「とい」から外れた自然薯探し



### (2) その他（華川っ子いきいき体験学習）

①1・2年「町たんけん」

生活科の学習で、華川町にある商店や郵便局などに見学に行き、学区内の探検をしました。お店の人にインタビューして、売り場や働く人たちの仕事の様子を知ることができました。



② 3・4年 学校間連携チャレンジプラン「県庁見学」  
石岡小学校と合同で、水戸市にある茨城県庁に見学に行きました。県庁の役割を聞いたり、施設の中を実際に見たりしたことで、はたらく人たちについて学ぶことができました。



③ 5・6年 「いのちの教育」  
助産師や保健師の方から「いのちの大切さ」について教えていただきました。妊婦体験や赤ちゃん人形の抱っこ体験などを行うことができました。



④ 縦割り班活動（縦割り班清掃）

1年生から6年生までを縦割り班に分け、異学年で協力しながら、年間活動をしています。

### (3) 学校評議員会（コミュニティ・スクール設置委員会）の充実

	期 日	主な内容	備 考
第1回	6月24日（金）	本年度の学校経営について コンプライアンス推進委員会	授業参観 ※ICT活用
第2回	11月25日（金）	本校教育活動の取組状況 学校運営協議会について	授業参観（保護者参加） ※ICT活用
第3回	2月24日（金）	学校関係者評価委員会 学校運営協議会準備会	授業参観（6年生を送る会）

※コロナ禍のため、給食試食は未実施

## 2 家庭・地域等との連携の工夫点

郷土愛を育む素晴らしい環境

自然薯栽培にあたっては、北茨城自然薯研究会の支援を受け、雨どいや栽培に適した山砂を使用した北茨城方式で行っている。地場産業の理解・地産地消の点からも、良い環境に恵まれている。さらに、青少年健全育成華川支部・青少年相談員・学校評議員・安全ボランティアの方々、本校の卒業生や元PTA役員等であり、三世代にわたって、地域との懸け橋になっている。

## 3 事業の成果と課題

### 【成果】

- ・ 地域の特産物である自然薯を小売店で買ったり、収穫物をもらったりするのではなく、自らの手で植え付けしたものが成長して成果物となるのだ、ということを実感することができた。
- ・ 植え付け位置からずれた種芋は地中深くに成長し、穴を掘り進めないと収穫することができず、生産者の苦勞を感じることもできた。
- ・ 11月に行った「華小祭り」にて、ゲストティーチャーへのお礼の場を設け、感謝の気持ちを伝えることができた。

### 【課題】

- ・ 感染症対策のため昨年に引き続き、収穫物は家庭への持ち帰りとなった。タブレットパソコンの持ち帰りも考慮すると、自宅での調理例を写真に撮るなどができるので、食すまでの過程を記録に残し、総合的な学習の時間や生活科との関連性を高めていきたい。

# 令和4年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（ 銚田市立大洋小学校 ）

## 1 学校全体としての取組

テーマ 家庭や地域の人々をつなげる学校教育の在り方  
～統合一年目に学校サポーターの輪を広げる手立て～

本校は、四つの小学校が統合し、令和4年4月より開校した新設校である。それぞれの学校が築いてきた家庭や地域との結びつきはあるが、新設校となるとPTA組織や今まで関わってくれていた学校サポーターの方々とも関係を再構築する必要があった。

そこで、「みんなでつくる みんながつながる大洋小」のスローガンのもと、保護者や地域の方々に協力を仰ぎながら、「つながり」を大切に以下の活動に取り組んだ。

- (1) PTAとの連携
- (2) 大洋中学校区保幼小中間の連携
- (3) 地域や外部機関との連携

## 2 家庭・地域等との連携の工夫点

- (1) PTAとの連携 → PTA担当者が、役員との事前の話し合いを十分に行った。
- ①図書委員会による読み聞かせは、新型コロナウイルス感染症の予防から、Zoomを使い各学級に配信した。(年2回)
  - ②環境委員会が年2回の奉仕作業を計画し、7月と9月に旧小学校区を2班に分けて実施した。
  - ③運動会の臨時駐車場として、地域住民の方から空き地を提供していただいた。草木が生い茂っていたが、PTAの方々が整地してくださり、作成することができた。



①<読み聞かせ>



②<除草作業>



③<臨時駐車場作成>

- (2) 大洋中学校区保幼小中間の連携 → 教務主任や保幼小接続コーディネーターが中心となり、連絡調整を密に行った。

- ①②大洋中学校の1年生が、6月のあいさつ運動を行った。また、2年生の職場体験学習では、12名の生徒が各学級に入り児童の学習支援を行った。
- ③1年生を中心に、園児たちとのふれ合い活動を年2回実施した。



①<中学生とあいさつ運動>



②<中学生職場体験学習>



③<保幼小交流会>

(3) 地域や外部機関との連携 → 教頭や養護教諭、保健主事、学年主任等が窓口となり、事前の打合せを綿密に行った。

- ① 地域在住の青少年育成銚田市民会議の皆さんが来校し、あいさつ運動を行った。
- ② 登下校の見守りは、保護者や地域の方々が自主的に実践してくれている。管理職等が時々その場を訪れてコミュニケーションを図り、情報共有するようにしている。
- ③ 9月から月1回の割合で、地域在住の「健康運動指導士」の資格を有する方を招聘し、姿勢教室を行った。継続することで児童の姿勢への意識も高まってきている。
- ④ 地域で活動している陶芸サークル「悠遊会」のメンバーが来校し、6年生の卒業制作として「マグカップ」の作成を指導してくれた。
- ⑤ 地域防災訓練として、銚田消防署大洋出張所や学区内にある消防分団の方々が、消防車両の見学、消火器体験やスモーク体験などのサポートをしてくれた。
- ⑥ 銚田市社会福祉協議会の職員をゲストティーチャーとして、6年生を対象に福祉体験（インスタント・シニア体験）を実施した。



①<あいさつ運動>



②<登下校時の見守り>



③<姿勢教室>



④<陶芸教室>



⑤<防災訓練>



⑥<福祉体験>

### 3 事業の成果と課題

#### 【成果】

- 学校評価アンケートの結果より、「学校は、家庭・地域と積極的に連携している」の質問に対して、「そう思う、大体そう思う」の回答が85.9%であった。これは、学校HPや学校だよりにて、様々な活動の様子を積極的に配信することで、学校の教育活動が多くの方々の協力により成り立っていることが理解されていると考えられる。
- 統合一年目からでも、旧小学校で関わってくださっていた方々と連携することで、「子供たちのために、学校のために」と、継続して協力を得られることができた。
- 学校運営協議会からも、学校・家庭・地域連携の取組を支持する意見が聞かれた。

#### 【課題】

- 今年度は、とにかく協力していただけそうな方に声をかけながら支援していただいた状況である。一般の方に関しては、ボランティア保険のことなど考えずに進めてしまった面もある。次年度は登録制にして、学校サポーターとしての組織をしっかりと構築する必要がある。（2月下旬～3月上旬にかけて、令和5年度協力者を募集）
- 次年度は、多くの学習のサポート（家庭科、毛筆、リコーダー、水泳学習等）ボランティアを募り、地域との連携をさらに充実させていきたい。
- 人材確保に向け、学区内の大洋公民館や市の生涯学習課とも連携を図っていく。

# 令和4年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（ 土浦市立新治学園義務教育学校 ）

## 1 学校全体としての取組

本校では、昨年度よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、その組織的活用を図ることで、「地域とともに教育活動を推進する学校づくり」を目指してきた。また、よりスムーズに導入していくために、15名からなるコミュニティ・スクール推進委員会を組織した。

研究では、家庭や地域との連携・協働を深め、地域における世代を超えた交流を行ってきた。

### 〔今年度の主な取組〕

- (1) 「地域活性化」プロジェクト ※詳細、下記参照
- (2) ボランティアによる毎朝の児童生徒の健康チェック
  - 教職員が、児童生徒と関わり合う時間が確保でき、働き方改革に繋がった。
- (3) 部活動指導員の導入
  - 教職員の負担軽減に繋がった。
- (4) 「助っ人」プロジェクト
  - ① 学習支援（家庭科の裁縫等）
    - 十数名のシニアボランティアにより、個への指導が適切に行われた。
  - ② 学習支援（見守り）
    - 元教員経験者が、授業における安全面の視点から児童を見守った。
- (5) 「花を咲かせよう」プロジェクト
  - 地域住民と児童生徒（4・7年生）が、種まきから定植までをともに行った。
  - 育った苗の一部を、地域住民やボランティアに配付した。

### 〔「地域活性化」プロジェクトについて〕

- (1) ねらい
    - 地域人材（米づくりの協力者）を活用する。
    - 小学校学習指導要領（H29年告示）における重点項目に取り組む。
      - ・ 合科的かつ教科横断的・総合的な取組の重視
        - ⇒ 3年総合的な学習の時間「新治ふるさと学習」と5年社会科「くらしを支える食料生産」を取り上げる。
      - ・ 体験活動の重視
        - ⇒ 協力者の指導の下、米作りから稲刈り、米の販売等を体験する。
    - 地域の特産物を題材にし、地域への愛着や誇りを高める。
    - 異学年（3年と5年）、児童と地域住民、本校と他校児童等、様々な形での交流を行う。
  - (2) 活動の実際
    - 令和3年度
      - ・ 年間計画を見直し、本活動を年間計画に位置づける。
      - ・ コミュニティ・スクール推進委員会のメンバーの協力を得ながら、米づくりの協力者を確保する。
    - 令和4年度
      - ・ 4月 3・5年担任が、協力者と打合せを行いながら、活動計画案を作成
      - ・ 5月 田植え
- ↓

↓ ※3年は、総合的な学習の時間として、5年は社会科として、それぞれ  
↓ 学習を進める。  
↓

- ・9月 稲刈り
- ・10月 販売する米袋のイラストを描く。
- ・11月 感謝の会（協力してくださった方へ感謝の気持ちを伝える）
- ・12月 販売開始
- ・1月 活動の振り返り  
（職員・児童・保護者・協力者・推進委員会メンバー）



## 2 家庭・地域等との連携の工夫点

### ○地域の人的・物的資源の活用

- ・コミュニティ・スクール推進委員会の協力

児童生徒が田植えや稲刈りを行うためには、協力してくれる「人」と「場所」が必要である。本校周辺は、自然豊かな田園地帯である。しかし、簡単に協力者が見つかるわけではない。そのため、地域やそこに住む住民をよく知るコミュニティ・スクール推進委員会のメンバーの協力が必要であった。そのおかげで、協力者が分かり、児童の体験活動へと進めていくことができた。

- ・学校教育への理解

協力者に対して、丁寧な説明を心がけた。体験活動の重要性や活動の目的、年間の見通し等、理解していただくために、十分時間をかけて説明した。そのため協力者も子どもたちの教育のために快く引き受けてくださった。

## 3 事業の成果と課題

### 【成果】

- 学校・家庭・地域の連携・協働により、児童は、地域のよさを再発見し、地域の一員としての自覚や地域を誇りに思う気持ちを強くした。
- 学年間の交流を進めていくなかで、人と関わることの楽しさや大切さに気づく児童が見られた。
- 3年児童は、5年児童からの励ましや助言により、「将来は自分もそうになりたい」と上級生への憧れや尊敬の気持ちを強くした。5年は、3年生児童と接するなかでやさしさや思いやりの気持ちをもって人と関わりたいと思う児童が増えた。

### 【課題】

- 学校教育において、学校が地域と連携・協働していくために必要な人的・物的資源を発掘し、活用していくシステムを構築することが重要である。

# 令和4年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（ 五霞町立五霞東小学校 ）

## 1 学校全体としての取組

- ・校内外人材バンク（ボランティア）体制の整備
- ・地域の講師等を活用した、家庭教育学級の充実
- ・五霞町役場、五霞町教育委員会と連携した、地域学習
- ・五霞町小学校統合に向けた、東西小学校の取組

## 2 家庭・地域等との連携の工夫点

- ・校内外人材バンク（読み聞かせ、家庭科、植栽各ボランティア）体制の整備
- ・地域の方々を講師とした家庭教育学級、さまざまな分野から講師をお招きしての授業参観（親子学習）等の積極的な実施
- ・五霞町役場主催の「ごっこ やってみよう TRY TRY プロジェクト」や総合的な学習の時間における地域と連携した授業の推進
- ・五霞町PTA連絡協議会において五霞町小中学校のPTA活動内容を共有しての、新小学校の組織体制づくり

## 3 事業の成果と課題

### 【成果】

- ・読み聞かせボランティア年9回（延べ32人）、家庭科学習ボランティア年11日（延べ54人）にご参加いただき、児童の学習活動が活性化した。また、春と夏に植栽ボランティアを募り、学校の緑化活動にご協力いただいた。



【読み聞かせボランティア】 【家庭科ボランティア】 【植栽ボランティア】

- ・家庭教育学級、親子教室の実施
  - 1年生
    - ・開級式、教育長講話
    - ・親子エアロビ教室【地域在住講師】
    - ・親子工作教室
  - 2年生
    - ・ほめ写(児童の自己肯定感を高めるスクラップブック)

### 【地域在住講師】

- 3年生 ・食育指導【郡内中学校栄養教諭】
- 4年生 ・手話教室【地域在住ろう講師、聴講師】
- 5年生 ・SDGs教室【茨城県県西地区企業】
- 6年生 ・がん教育教室【茨城県がん教育講演会】
- 1～3年生希望保護者 クリスマス壁飾り作り【地域在住講師】



【1年生 エアロビ】 【2年生 ほめ写】 【3年生 食育教室】 【4年生 手話教室】



【5年生 SDGs教室】 【6年生 がん教育】 【4年生五霞町プロジェクト①②】

- ・五霞町と協力してのSDGs学習や総合的な学習の時間の実施  
SDGs学習では、町で講師を招聘し、五霞町のSDGsマップ作りを行った。
- ・「ごっこ やってみよう TRY TRY プロジェクト」では、東西小学校合同で、4年生は「ふだんの生活をしあわせにするためのいろいろなアイデア」、6年生は五霞町の道の駅で販売している「ごこいもコロッケ」を周知するアイデアを話し合った。さらに、5年生の学習として「五霞町を知ろうプロジェクト」を提案した。令和4年度は本校のみで五霞町の企業見学、名所等の見学を3月に実施する予定である。
- ・五霞町小中学校統合委員会において、統合後の通学方法について地域の方々と話し合う機会を設けていただいた。また、五霞町PTA連絡協議会において、統合後のPTA組織の素案を固めた。

### 【課題】

- ・ホームページや学校だより等、学校の様子の配信や周知（スマートフォンを活用しない世代の方々への発信等）
- ・ボランティア組織の人員確保と継続的な活動の促進
- ・家庭教育学級開催等における材料費予算の確保